

JYPSトレーニング報告書

2018/08/11 Sat @三鷹市公会堂（三鷹市役所）

1. ロジスティクス情報

日時：8月11日 9:00 - 19:00

場所：三鷹市公会堂会議室

2. 目的

- 国連レベルのアドボカシーについて理解し、国内で何ができるかを検討する。
- JYPSの活動形態について理解を深め、JYPSが何か説明でき、どのようなプラットフォームを目指すのか考えを持つ
- 各部署がどう協働するのか役割分担とコミュニケーションを明確にする
- 分散され、統合されていない新人教育について、包括的で透明性のある仕組みを整える
- 加盟団体との関係性について理解をする。
- JYPSと協働しているステークホルダーがだれか理解する(SDGs市民社会ネットワーク、外務省、Japan Mission etc...)

3. トレーニングを通じて達成したいこと（具体的な成果物）

- 来年の2019年のHLPFまでの具体的な予定表（主な会議、それに対するアクション）
- 新人教育のメカニズム策定
- JYPSのシステム整理：新しい組織図
- 会員制度の再構築（フォーム、そのレスポンス、google mailingリストへ、）
- 一年間の広報戦略
- 総会に向けたロードマップ

当日は基本的なJYPS解説から各会議や分野の政策の様子まで詳しい内容を扱いたいと思います。夕方からは総会に向けた打ち合わせを行う予定です。

1. プログラム案

時間	プログラム	達成したいアウトカム	ファシリテーター	メモ
9:00	紹介・顔合わせ・今日の期待共有	関係性の深化+場の形成+ゴール設定		
9:20	JYPSの歴史とアジェンダ2030			
9:40	Where we are at?	歴史を踏まえた上での現状分析	現職理事	JYPSの加盟数、役職配分、などなどすべてのデータを提示
10:00	Break			
10:05	UN in one hour: HLPF, SDGs process, IGOs, etc + JYPSのパートナー、日本の市民社会	一時間で国連を理解する。会議に参加するというのがどういう意味か理解する。		
12:05	Lunch			
13:00	Where should we go:(and break after)	- JYPSの存在意義、JYPSの		

	<ul style="list-style-type: none"> - Assessment of who we ought to be and are ~13:10 JYPSはいまどういう状況か？ ~ 13:40 JYPSはどういう風になるべきか？具体的に新しいvisionとmissionを決める ~ 14:00 そのvisionとmissionのoperationalisation: 3つの活動の柱？ ~ 14:20 それに必要なJYPSの組織図 ~ 14:40 改正に必要なこと？ ~ 15:00 buffer 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局で働く意味、どのようなプラットフォームにしていくのかを通じて、方向性を定める。 - Visionとmissionの変更 		
15:00	小グループに分かれて： <ul style="list-style-type: none"> - 広報戦略（ウェブサイト、募金なども含め） - 2019HLPFに向けたアドボカシープラン - 新人教育制度作成 	CAPD		
16:30	ブレイク			
16:45	各グループから具体的な共有とアクションポイントの確認			
17:30	総会までのロードマップ			
18:00	アクションポイントの確認			
18:30	振り返り			
19:00	終了			

~議事録一部~

2018年度 (2017/9 ~ 現在)

加盟数： 団体26 個人316 メーリス345

登壇数： 16 (そのうちJYPSから他の団体に回った数 1)

主催イベント： 3 (Sustainability night, UNGC SDGs分科会, 水×SDGs勉強会)

東京外の地方で行ったイベント： 1 (福島のエネギーツアー)

3. JYPS背景説明

JYPSがどんな文脈で出てきたか、どんな役割でやろうとしているか

日本のユースエンゲージメント(タイムライン)

2008 - 洞爺湖サミット (G8)

ここで大きなユースのサミットが開催された @東京 or 北海道 - 提言
環境系から繋がって複数分野

2011 : Rio+20 準備委員会が始まった

2012 : RIO+20 1992年のRIOの会議のフォローアップ

2011-2013までの間に9回くらいあって会議している

SDGsやるのが決まる

2014 : Post2015youth できた。オープンワーキンググループ 国連。今のベース

2014年9月からSFDRRの準備

8月にChildren and Youth の日本事務局設置 (IFMSA, IVUSAなどを巻き込む)

2015 : 2015/1-9 国連で交渉 Post2015 Process -> 9月のアジェンダ2030に繋がる
SFDRRの採択の会議 3月

Children Youth Forum 3月に開催

Post2015と上の事務局などを結びつけて作ったのが - post JYPP2015 9月

その後12月くらいに2015も終わるし名前変えて JYPSできた (sustianbilityのs入れた)

JYPSが目指しているもの

Youth engagementの枠でコーディネーションがなくていろんな団体が意思決定者に対して好き勝手言っている状態 - 政策作るときに、声大きい人たちが残る。その他の人たちはいなくなってしまう。

だから、ユースの声を取りまとめる人が大切なのではないか。

そのために、JYPSは機会を共有しなければいけない - 参画の場所を広げる

投げる時はopenにしてやる ex. こういう機会があるけどやりたいですか？応募してきた人たちで決めてもらったりなど。

Topicにおいて、加盟団体間の利害対立や意見の対立が起きる場合JYPSはどう動く？

- 最低限のレベルは守らなければならない ex. 人権尊重、環境保護
- ユースの大多数がこうだと思ってる方向を取る
- それでも意見が決まらないなら専門家に任せる。ユースが決めれないこともある
- case by case

ユースの影響は？ どんなことを決められる？

- 日本政府が2017年からユースを推し始めたのはJYPSがやっているからっているものもある
 - 3つの柱の一つ
 - 2017年のHLPFの交渉のユースのところ ほとんどひろさん書いてる
 - 国家間でも意見が割れているテーマ(扱いにくい問題)だと、なかなか聞いてもらえないことはある
ex. Foreign occupation by the US. , 核兵器
-

JYPSの活動を言語化して可視化

1つ : Mission and visionの書き直し

3つ : 3つの活動エリア

3つ : 内容

- JYPSが何をやっているのか - 現状
- Ought to be
- 分類

現状のVision and Mission

ビジョン - 社会のありかた

JYPSは、社会のすべて構成員が、公平に自らの意見を政策に反映させることを通じて、衡平で公正な社会が実現された世界を目指します。

ミッション

JYPSは若者の意見を集約・調整する自治民主的な仕組みの設立、管理、そして改善をすることを通じて、若者が政府や国際的な枠組みに対しその意見を反映させることを可能にします。

3つのエリア

- 政策提言・参画
- 能力構築・教育

- ネットワーク・連携
- Advocacy and participation - 政策提言と参画
- Capacity building - 能力構築と教育
- Networking and partnership

これまでの活動を新しいカテゴリーに分類すると...

1. Advocacy
日本政府との交渉、国際会議への派遣、HLPFのgoalごとの日本gov and CSがなにしているか
Mofa、HLPF2017 shadow report、会議のレポート
 2. Capacity building
ワークショップ、スタディーツアー、ウェビナー（人権）、新しい人に対してJYPS説明
派遣団コール、HLPF、国際人権レポ
 3. Outreach
JYPSナイト、主催イベント、共催イベント、HLPF寄稿、そうだったのかSDGs、国際なんとか
デー、SDGs知識シリーズ、HLPF japan gov reception ブース、登壇
広報系（FB, insta, blog, twitter)
-

RIO+20

In 1990s, 環境と開発は対立していた

RIOの会議 in 1992

その後、時代の流れとして社会開発、人間開発にfocus -> MDGs (途上国開発の開発目標)
MDGsは国連の専門家と、一部の先進国が集まって作ったのでownershipはなかった
また、誰が実施するかというのはメンバーステイトと国連が中心だった
先進国が途上国に押し付けた部分があり、途上国もあまりやる気がなかったところもある

2008 - global recession

持続可能性という観点では先進国も全くダメだった

MDGsが終わりにかかる and RIOの20年後のfollow-upのタイミング

RIO+20のオープンワーキンググループのfollow-upで17このゴールと169のindicatorが決めたれた
2030アジェンダによって採択された (4つの構成があって、SDGsはその中の一つ)

UNCED

- Agenda 21
- Convention on biodiversity
- UN framework Convention on Climate Change

MDGsで一番改善した国 - インドと中国

その2カ国でほぼ目標達成した

The future we want の達成のためにはMDGsでは不十分だった

Agenda 21にmajor groupが入った in 1992 - 社会の critical segment of society

女性, Children and youth, NGO, Agricultural sector, Local authorities , 先住民, Science and technology
community, 労働者, Business and industry

各国間の交渉

なぜ国連の会議に参加するのか？

- 交渉されるテキストに影響を与えるため

- 同盟形成
- それぞれの団体が行ってきた実施から、成功例をいい実施の例として紹介する
- 各国の交渉されるテキストに対するポジションにつき、理解を深め、実施のアドボカシーとして反映させる・より良い政策を合意させる
- 資金獲得
- 国内政策を使って国際政策を作る。逆も然り。

使われてるテキスト=国連加盟国が賛成しているもの。それを使って交渉する。

HLPF

エレメントペーパー⇒第一ドラフト⇒第二ドラフト⇒最終草案⇒採択

草案の作り方

物によってはparagraph by paragraph、それか好きなことを各国が言っていて議長が決める

加盟国マッピング (グルーピング)

- Global north vs. global south
- グループ
 - G77 +China (135ヶ国くらいここに入ってる) - ex. India, Brazil, Bolivia, China, Cuba, Egypt, South Africa etc.
 - EU
 - Single decision countries - 一つの国として発言する国たち ex. Australia, Canada, Japan, Korea, Mexico, Russia etc.
 - AOSIS
 - JUNCANZ (帝国主義一ず) - US, JAPAN脱退した
 - Etc.
- Regional Blocks もある

政治的なブロッキングと地域的なブロッキングがある

発言順位としては大きいグループが最初で、次に小さいグループ

共同議長 (co-facilitator)

- 大抵、北と南から1つずつ
- 最近男女バランスもしっかりしている

交渉において何をやるか

1. その交渉において欲しいものを定める
2. Allianceを作って各国の若者にいってもらえるなどのアプローチ

Financing for Development

国際租税問題

MDGsのFfDの仕組みを作ったのがOECD

これもそれに似ている tsx system もOECDによって作られている

Intergovernmental bodyをUNないで作ろうという動きがあったが、OECD加盟国たちはそうして島うごごたごたしてしまうのでそれは嫌だと反対した

committee of experts on tax international cooperation in tax matters (OECD BEPS) vs intergovernmental body of international tax cooperation (UN tax code)

結局OECDの方に決ってしまった。。。 - どちらがいい悪いとは言えないがUNの方がengagement自体はいいのではないかと議論

FfDの市民社会の方法

先進国だけがお金を得る仕組みを立て直す

ffDはお金の話だけではなく、global justice and political の問題でもある

2019年10月時点でJYPSは何を達成していなければいけないのか

①政策提言 ②キャパビル ③アウトリーチ 優先順位高

①政策提言

- Position papers for all SDGs
- Y20に公式参加
- TICAD youth 席
- JYPS shadow report
- 各省庁にat least 1人はJYPSの窓口
- 各省庁に顔出し 2ヶ月に1回
- G7 YF and TICAD YF, HLPF 報告会

②キャパビル

- 事務局内のトレーニング・会議月1回
- ゴールごとのウェビナー
- 2ヶ月に1回加盟団体との会議。できれば in person (11月までに最低1回は会う) - 個別
- アドボカシトレーニング 年一回
- 新人教育

③アウトリーチ

- 17のゴールにat least 3団体ずつ
- 加盟団体を75まで増やす (東京だけでなく地方も含め) 個人加盟を1000まで増やす
- web pageをリフォーム
- 各地方で1回ずつはイベント開催
- メディア掲載30回
- 高校とか大学に20校以上行ってJYPSについて話す
- FB Outreach - 現在1.6K -> 残り800いいね
- メールで活動報告・ニュースレター
- 政府*UNとのイベント
- FBでSDGs Japanを抜く
- 全体会議 (月1回)

その他

- JYPS内のリーダーシップのジェンダー比と発言比を均等に